

2009年6月25日

総合電子工学専攻各位

総合電子工学専攻 大学院特別ゼミナールのご案内

専攻主任： 榎本 博行
世話人： 萬代 武史

下記の通り、大学院特別ゼミナールを開催致します。
ご出席のほどよろしくお願い致します。
なお、総合電子工学専攻の大学院生は必須ですので、必ず出席して下さい。

記

日時： 2009年7月7日（火） 17:00～18:30

場所： エデュケーションセンター（J号館）J515 教室

講師： 竹居 正登 先生（基礎理工学科）

演題： 「**個人および集団における意見の形成**

—確率モデルによる研究— 」

概要： 物理・化学・生物・社会現象等のモデルとして、1970年頃から「相互作用のある粒子系」の確率論的な研究が本格的に始まった。その中心で活躍してきた T. Liggett 教授（UCLA）の65歳の誕生日を記念し、本年6月に北京大学で国際研究集会が開催された。本講演では、研究集会の様子を報告し、集団における意見形成のモデルとして Liggett 教授が提案した「投票者モデル」について簡単に紹介する。また、初等的な計算で結論が得られる問題として、『海に行こうか、それともバーに呑みに行こうか』という話題について平易に解説する。

以上